

## お米と果物とミルクのふしぎ？体験教室

事業代表者：宇都宮大学農学部 教授 居城幸夫  
構成員：宇都宮大学農学部 教授 長尾慶和  
宇都宮大学農学部 准教授 高橋行継  
宇都宮大学農学部 准教授 柏崎 勝

### 1. 事業の目的・意義

附属農場の自然の中で、収穫や動物とのふれあい、収穫物の加工、試食などを通じて、自分たちの食を支える生産現場や植物や動物たちの様子を学ぶことにより、豊かな感性を育み、教室だけでは学べない生きた科学に関する知識を学ぶ。

### 2. 事業の内容

実施内容により安全に実施できる受け入れ可能人数が異なるため、お米と果物コースとミルクコースの2つのコースを別々に開催した。お米と果物コースについては、本年度も昨年までと同様に、作物（お米）部門、園芸（果物）部門、機械部門ならびに畜産（ウシ）部門の各専任教官の協力によって、それぞれの分野の体験実習を行った（詳細は下記参照）。ミルクコースについては、畜産部門に特化した内容で行った（詳細は下記参照）。案内と募集は、宇都宮市内小学校へのダイレクトメールと新聞への掲載により行った。「ミルクコース」については、2回合計の定員 20 家族に対して多くの応募があったが、20 組を受け入れた。安全性やウシの頭数の関係で受け入れ人数に限界があるとはいえ、今後課題が残された。「お米と果物コース」には、定員 30 家族に対して家族数が不足していたので、抽選を行わずに全員を受け入れ、ミルクコースで抽選を外れた家族を加えて 30 家族で実施した。内容の詳細について以下に記す。

お米と果物コース：5月から12月にかけて、約1ヶ月おきに6回開催する。水稻の田植えや収穫、ナシの摘果や収穫、農作業機械体験、乳牛の飼養管理の見学、などを春から秋にかけて季節を追いながら学ぶ。

#### ●日程と内容：

第1日 平成25年5月25日(土)

- ・オリエンテーション
- ・お米の苗を田植えしよう！（図1）

第2日 平成25年6月29日(土)

- ・お米の苗はりっぱに育っているかな？
- ・りっぱな赤ちゃんナシ・ブドウを見つけよう！（図2）

第3日 平成25年8月31日(土)

- ・機械の力と不思議を体験しよう！（図3）

- ・ナシやブドウを収穫するぞ！（図4）

第4日 平成25年9月28日(土)

- ・さあ、お米の収穫だ！（図5）
- ・お米の収穫に大きな機械が大活躍！

第5日 平成25年10月26日(土)

- ・リンゴはりっぱに育ったかな？
- ・収穫したお米を食べてみよう！（図6）

第6日 平成25年11月30日(土)

- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！（図7）
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：33 家族 88 名



図1. お米の苗を田植えしよう！



図2. りっぱな赤ちゃんナシ・ブドウを見つけよう



図3. 機械の力と不思議を体験しよう！



図4. ナシやブドウを収穫するぞ！



図5. さあ、お米の収穫だ！



図6. 収穫したお米を食べてみよう！

ミルクコース：6月から7月にかけて、週末毎に2日間のコースを2回開催する。乳牛の給餌・搾乳、ヒツジの毛刈りや身体検査、アイスクリーム加工などを体験する。

●日程と内容：

第1回

第1日 平成25年6月16日（日）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！（図7）
- ・うしにご飯をあげよう！
- ・乳しぼりに挑戦！（図8）

第2日 平成25年6月23日（日）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！（図9）
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！（図10）
- ・動物のからだ、ヒトのからだ（図11）
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：10家族28名

第2回

第1日 平成25年6月29日（土）

- ・オリエンテーション
- ・うしとミルクの不思議解説
- ・うしの暮らしをのぞいてみよう！
- ・うしにご飯をあげよう！
- ・乳しぼりに挑戦！

第2日 平成25年7月6日（土）

- ・搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！
- ・ヒツジの毛刈りにチャレンジ！
- ・動物のからだ、ヒトのからだ
- ・質疑応答コーナー

●場所：宇都宮大学農学部附属農場

●参加者：10家族22名





図7. ウシの暮らしをのぞいてみよう！



図10. ヒツジの毛刈りにチャレンジ！



図8. 乳しぼりに挑戦！



図11. 動物のからだ、ヒトのからだ



図9. 搾りたてミルクでアイスクリームを作ろう！

### 3. 事業の成果

本年度も、地域の多くの子供たちとその保護者に体験実習を提供し、自分たちの「食」と「農業」の結びつきや、その「農業」を支える「理科・科学」の結びつきについて、幅広く理解を深めることができたものと思われる。最終日のアンケートにおいては、参加した保護者から「食卓を囲んで体験実習の事が話題になり、お米や果物やミルクをこれまでよりもありがたく味わえるようになった」、「動物の命に感謝する気持ちが生まれた」などの声が多数寄せられた。これらの体験が、必ずや子供たちの豊かな感受性を育み、しなやかな人生を過ごすための一助となるであろうことを確信している。

### 4. 今後の展望

長年の実施により、地域からの期待が大きく、本年度も継続して実施する予定である。